



“安心・安全・安定のガス窯を一から作る(株)大築窯炉工業”の 陶芸家と窯屋を結ぶ情報誌

37窯 窯十比 復活版

ウラ面も情報満載

必ず良いことがある人のために送る！

DAICHIKU のお得意様向けニュースレター

【発行日】2012年10月30日 【発行人】(株)大築窯炉工業 谷口浩司

〒309-1611 茨城県笠間市笠間 2192-5 TEL0296-72-1444 【ホームページ】<http://www.daichiku.jp/>

■「52歳からスタートした陶芸家 三崎 哲郎氏 第21回日本陶芸展 優秀作品賞・文部科学大臣賞」



【三崎哲郎さんプロフィール】

- ☆20代～30代：テレビ番組制作者時代
- ☆40代～50代：病院事務長時代
- ☆50代～現在～将来：陶芸家時代

【陶歴・入選 受賞】

日本伝統工芸展 07 08 09 10
日本工芸会正会員認定 11

東日本伝統工芸展07 08 09 10 11

日本陶芸展01 03 05 07
09 (賞候補)
11 (文部科学大臣賞)

菊池ビエンナーレ 08
一水会展 08 (佳作賞) 09
千葉県展 99～02
茨城県展 99～08 10
全陶展 00～09

日本工芸会 正会員
伝統工芸陶業会 会員

【桃青窯・三崎哲郎】

千葉県松戸市下矢切 74-1
TEL：047-368-3473

■三崎さんから一言■

私のように50歳を過ぎてから趣味で始めた陶芸にもチャンスがあります。団塊の世代の方に特に伝えたいことですが、趣味は本気で取り組んでほしいです。そこから新しい自分と向き合い、新しい世界との出会い、楽しいことがたくさん待っています。ご自分の好きなことを大切に生きてほしいと思います。

●秋元：このたびは優秀作品賞おめでとうございます。

○三崎：ありがとうございます。

陶芸は16年程度ですが、65歳から伝統工芸展で入選できるようになりました。趣味で始めた陶芸ですが、一所懸命やっているうちにいつの間にか本業になっていたという感じです。

●秋元：陶芸で影響を受けた人を教えていただけますか？

○三崎：尊敬できる人はたくさんいますが、その人すべてを好きになったりはしませんね。独学だったので、好きな作品は多いですが影響を受けた人物はいません。

●秋元：仕事をしているとき、楽しいと感じる瞬間は？

○三崎：上達する楽しさは、苦しさを越えないと感じられません。苦しさを乗り越えられた時が楽しいと感じる瞬間です。

●秋元：肩書は何だといえますか？

○三崎：それはいらなそうですが、あえて言うなら陶芸家です。本当は陶工という言葉が好きですが。

●秋元：今お選びの素材を使うのはなぜですか？

○三崎：今表現したいと思うことに一番やりやすい素材だからです。陶器は応用範囲が広いと思います。

●秋元：現在、松戸市で活動していますが？

○三崎：産地はやきものをするのに必要な条件、歴史があります。産地のやきものは、その土地の空気に染められながらできる要素も多いと思います。良い土が取れ、赤松が生え、良い斜面があり、良い風が吹き。私は松戸で作陶していますので個性で勝負するしかありませんね。

●秋元：影響を受けることと、真似るの違いはどこにあると思いますか？

○三崎：ズバリ、自分がそこにいるか、いないか？だと思います。ルーシー・リーの作品は精神性よりデザインですね。真似はしやすいですが影響までは受けにくい。逆に、半泥子の作品は形よりも精神性を作品に残しています。これは影響を受けやすいです。自分自身を発揮できる余地があるかどうか大切だと思います。

●秋元：大築窯炉のガス窯を選んだ理由は？

○三崎：窯の作り手の顔がよく見えたからです。売りっぱなしではなく、良く面倒を見てくれます。紹介ではなく、自分の足で探しました。工場の雰囲気も良かったですし、とても親切に案内をしてくれて安心感がありました。近場で交流しやすいと思い決めました。

●秋元：大築窯炉のイメージは？

○三崎：働いている人がとても良い会社です。

●敬称は略させていただきました

取材日平成23年2月28日

取材担当：秋元智香

うれしい！楽しい！大好き！ダイテク！メッセージ！

■番組制作、病院、陶芸家と三つの人生を歩んでこられた三崎さん。今回の受賞は長寿テレビ番組、先端医療、工芸会正会員と常にひとつ先を目指してきた結果だと感じました。おめでとうございます。PS 雪隠づめはほどほどに。。。

■ユーザーさんの個展情報■



近藤文展 (9月29日～10月11日)
もえぎ本店(益子町上大羽堂ケ入 2356)
遠藤太郎展 (9月29日～10月11日)
もえぎ城内坂店(益子町城内坂 150)



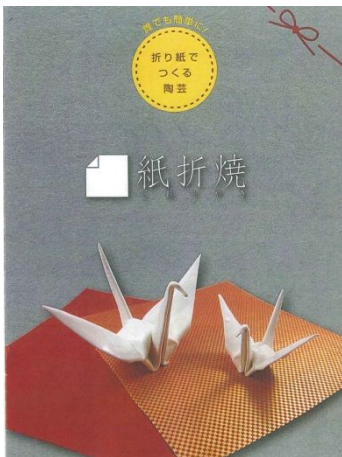
高橋協子展 (10月7日～10月31日)
銀座ギャラリー門(東京都中央区銀座 6-7-4)



羽石修二 焼締陶展
10月17日～10月23日
鳥取大丸アートギャラリー
1-4F
〒680-8601
鳥取県鳥取市今町 2-151
電話
0857-25-2111

【お知らせ】
当個展情報はウェブ上の情報をもとに掲載しております。DMをお送りいただければ紙面の許す範囲内でできるだけ掲載いたします。

■陶芸羅針盤・トピックス「折り紙でつくる陶芸 紙折焼」



「陶千代紙」は普通の折り紙のように折ることができる特殊な折り紙粘土です。アイデア次第で小物入れや箸置き、切文字や切絵などのいろいろな形も作陶が可能で無限の可能性を秘めた折り紙粘土です。資料のご請求は当社まで。

■転写紙【別売】のご紹介
サイズ 120×110mm 4種×各1枚 1セット … 2,100円(税込)

花(赤)	花(藍)	花(青)	めでたいづくし

How to 紙折焼レシピ
～ まずは基本の鶴から ～

セット内容

	単品価格
●陶千代紙(240×240mm)×5	… 5,250円(税込)
●専用のり×1	… 1,575円(税込)
●専用硬化剤×1	… 1,575円(税込)
●専用泥粧剤×2	… 5,040円(税込)
●専用透明釉薬×1	… 2,310円(税込)
セット価格	14,280円(税込)

準備していただくもの

- カッターナイフまたはハサミ
- 鉛筆、定規
- 筆
- 容器小
- 容器大
- スポンジ

■陶芸羅針盤 鉄色について

鉄の色は？と言われて何色を想像するでしょうか？日本の伝統色 和色大辞典(<http://www.colordic.org/w/>)によると鉄色は#005243です。JISの色彩規格では「ごく暗い青緑色」としています。それではなぜこのような色が鉄色なのでしょう？

透明釉に数%の鉄分を入れ還元焼成すると緑色になることはご存知の方も多いと思います。還元焼成は窯の中で還元ガスの作用により酸化金属が還元され、つまり酸素が金属から奪われることによって金属本来の色に近づいてゆくことをいいます。換言すると、金属のもともとの色ということになります。

また、造成地などで土手に切り取られ粘土層がむき出しになったところを見た経験があるかと思います。その時、粘土は場所によって青緑でした。これは鉄分を含んだ粘土

が地表に現れ、それまで地上の酸素にさらされていない鉄の色、だったのです。鉄の色というどうしても黒っぽい色や、錆びた茶色を連想しがちですが、日本の伝統色の中に「ごく暗い青緑色」として定義されていることに日本人の色に対する繊細さと本質を捉えた色彩感覚に驚かされてしまいます。

(次回は「かめのぞきいろ」)

鉄色 てついろ
#005243
日本の伝統色
R:0 G:82 B:67
H:169 S:100 B:32
L*:27.95 a*:-42.52 b*:-0.05
C:100% M:0% Y:18% K:68%

色相
明度
彩度

■編集後記 あとかんげん

■笠間益子には500件以上の窯元があります。地震後の3月は、春に向けて窯焚きで忙しい時期なのに「急いでいる人を先に修理してやってくれ！」という作家さんが多かったことに驚きました。地震で窯も壊れたけど、同時に仕掛りの作品もたくさん壊れてしまいました。だから窯焚きをしたくてもものがないので、窯焚きができる人を優先してほしい。というのです。同じように、個展の日程から〇〇月までに直してくれればOKだから。と自分ばかりを優先しないで私たち業者とやきもの同業者に配慮した言葉を多く聞いたことにも驚きました。■笠間で窯の修理をすると、「益子のほうが笠間よりひどいよね」と聞き、益子では「笠間のほうが益子より壊れてるよ」と聞きます。お互いに相手のほうがひどい状況だと思っているのです。実際に壊れた窯を見ているわけではないのですが、笠間は益子を益子は笠間を気遣った話になることが多いように感じました。日頃どちらの産地も意識することはほとんどないのですが、こんな時に気遣った言葉を聞いたのは貴重だったと思います。■ものを作るということは優しい心がないとできない。という話を聞いたことがあります。まったくその通りだと感じました。「人が作ったものの半分は優しい心でできている」といわれます。震災で作陶家の優しさを感じる事ができた1年でした。

■今までは戦後〇〇年と言われてきましたが、あの地震によって震災後と言われるように歴史の変わり目となってしまいました。多くの建物が壊れ、人々が亡くなり、心にも大きな傷跡を残しました。震災によって家族の絆が深まったところもあれば、そうでない家族もあるようです。人の考え方や価値観さえも大きく変えてしまった、それが東日本大震災だったといえます。そんな中、私たちは陶芸窯の修理・修復に奔走した1年6か月でした。ガス窯はひどい壊れ方をするものは少ないのですが、20年以上で比較的大きな窯や、小型でも台車式の窯は揺れの影響が受けやすいといえます。また、場所によって被害の大きさも違いました。弊社では幸いなことにアンカーボルトで固定してあったため、大きな損傷はありませんでした。

陶芸家の優しさを知る

笠間益子には500件以上の窯元があります。地震後、とりあえず状況を見に行こうと連絡のあったところに行きました。本来ならば窯焚きで忙しい時期なのに「急いでいる人を先に直してやってくれ！」という作家さんが多かったことに驚きました。特に益子です。地震で窯も壊れたけど、同時に仕掛りの作品もたくさん壊れてしまいました。だから窯焚きをしたくても作品がないので、窯焚きができるだけのものがある人を優先してほしい。というのです。同じように、予定している個展の日程から、〇〇月までに直してくれればOKだから。と自分ばかりを優先しないで私たち業者とやきもの同業者に配慮した言葉を多く聞いたことには驚きました。

ものを作るということは優しい心がないとできない。という話を聞いたことがあります。

まったくその通りだと感じました。

私は思います、「人が作ったものの半分は優しい心でできている」と。震災で陶芸家の優しさを感じることができた1年でした。

お互いを思う気持ち

笠間で窯の修理をすると、「益子のほうが笠間よりひどいよね」と聞き、益子では「笠間のほうが益子より壊れてるよ」と聞きます。お互いに相手のほうがひどい状況だと感じているのです。実際に壊れた窯を見ているわけではないでしょうし、たぶん電話で話したくらいだと思います。それでも相手を気遣った話になる。本当のことを知っているのは私たちですが、「まだ向こうよりはいいから、頑張るぞ」と気持ちを切り替えようとしています。